

平成 28 年度 事業 報告

社会福祉法人 喜和保育事業会

子ども・子育て支援関連の施策や給付について一定の拡充が実現され一年になりますが、依然手探りの状況が続いている中、事務量が著しく煩雑なものとなりとりまく環境は複雑化しています。全国的に保育士・介護士共に人材不足ですが、施設数だけが増加するためより深刻化しています。

平成 28 年度、各施設の状況を見てみたいと思います。

きのみ保育園は、一年を通して利用人数が増加せず 12 月より利用定員を 10 名下げて 110 名としました。一時保育は昨年よりもニーズがあり年間延 920 名の利用がありました。またトイレの改修、床暖房、波板、アスレチックをはじめ修理を多数行いました。更にポルタリングを設置し子どもたちの遊びの幅を広げることが出来ました。

きのみむすび保育園は、保育士の途中離職もあり一年を通じて定員の子どもたちを受け入れることが困難となり 12 月より利用定員を 10 名下げ 160 名としました。一時保育は年間延 1020 名の利用がありました。ボイラーの修理やパソコンや時計の購入はありましたが、大きな支出はありませんでした。

子育て支援は去年に比べて利用者が増加しました。特に手形スタンプが人気で、定員を超えて予約が入ることが多く翌月ご案内となることが多々ありました。地域の方々にご利用いただけ、相談窓口として認識を深めてもらい気軽にいらしていただける場所になればと思います。

子どもの家については、平日は一日平均 16 名程度、学校休校日の長期の休みには最大 25 名近い利用が見られました。

きのみ、むすび、子ども家にそれぞれに ICT が導入されました。

南港北地域在宅サービスステーションは利用者が9月に少なかったことが影響し、昨年に比べると厳しい状況でした。高齢者家族の介護負担がより重くなってきている中、施設へニーズがより一層高まっていて、通所介護の必要性は年々薄くなってきています。

中央の動きや情報は依然として届きにくくわかりにくいですが、各施設とも把握・共有しつつ、職員間での連携をとり、個々人が施設の特色を認識し能力向上と内容を深め、更に研鑽を積むことで事業が発展するよう努力していく必要が不可欠です。

きのみ保育園

1、保育園の運営

所在地	大阪市住之江区南港中4-2-30
利用定員	110名
職員	22名（保育士、看護師、栄養士、調理師）

2、事業内容

当法人は、大阪湾の埋立地でベッドタウンである南港ポートタウン内に立地している。

街には、銀行・郵便局・ショッピングセンター・各科の医療施設などが整えられている。また、比較的自然も多く、公園やグラウンド、人工の池など住民のための憩いの施設も数多く点在する。

法人設立以来、全施設の核となっている当施設ではあるが、社会全体が大きく変革している今日、子どもたちを取り巻く環境にも様々な変化がみられる。多様化するニーズに応じて、保育内容の充実、施設整備、栄養バランスのとれた給食の提供、保育者の資質向上などの取り組みを深めた。

保育の内容としてはクラスにこだわらず、園をひとつの家族として考え、異年齢の縦の群れ遊びを重視したのびのび充実保育を中心に取り組んできた。年齢に関係なく、気の合う仲間と自分がやりたいこと、やれること、やれそうなことを好きなだけ行える時間と空間を保障した。また、絵画・製作、音楽リズム、運動遊びなどにおいては年齢に応じた内容も十分に取り入れた。

家庭との連絡を密に取りながら、保護者と共通の理解を持ってかかわっていく中で、子どもたち一人ひとりが主人公であることを再認識した。

設備、環境面では乳児トイレの改修、床暖や水周りの修理、暖房機の設置などを行った。また

ポレタリングの設置、アスレチックのメンテナンスを行い、子どもたちの遊びの幅を広げた。さらにICT化に伴い登降園システムを導入した。

子どもたちの食事は和食主流で、食材は限りなく近郊でとれたものとし、減農薬・有機農法採用の物を使った、素材の持つ美味しさ、旬の味わいができるように創意工夫を重ねた。食材選びはより一層注意し、栄養面を更に充実させ、健康なからだと豊かな心を育てていく食事に取り組んだ。

月1回のペースではあるが園で勉強会を行なったり、それぞれのスタッフが年4回以上外の研修会に参加し研鑽を積み個々の知識を高めた。

3、保育時間

午前7時からおおむね午後8時すぎまで保育者のニーズに応えてきた。

4、一時的保育事業

一時保育利用希望の子どもは、在園と同じ環境で一緒に保育を行った。昨年よりも利用者の数が増加し多い日で7名の利用があった（年間延920名）

5、子育て支援センター

専用の電話や直接来園による子育て相談に応じた。園の保護者だけでなく、地域に在住の親から育児に限らず、自身の不安や悩みなどさまざまな相談を受け、専門の先生を交えながら話し合いの場も設けた。乳幼児の発育、健康、育児の他に夫婦、家族、地域における問題なども多かった。また卒園児の親からの相談も数件あり、昼夜を問わず、相談に応じてきた。

きのみむすび保育園

1、保育園の運営

所在地 大阪市住之江区西加賀屋4-4-10

利用定員 160名

職員 42名（保育士、管理栄養士、栄養士、調理師）

2、事業内容

住之江区南部に位置する当園は駅から離れ、地理的には不便であるが、早朝から夜遅くまでの保

育の希望が多い。

祖父母がいない核家族化の進行や、仕事を持つ母親の増加などにもなう保護者のニーズにできる限り対応しながら、子どもの立場に立った保育を行ってきた。保育内容の充実、施設の整備、栄養バランスのとれた給食の提供、保育者の資質向上などに取り組みを深めてきた。

保育内容としては、登園直後ののびのび充実保育が更に浸透させるために、保育者間のミーティングを常に持ち、検討を重ねながら、子ども一人ひとりの能力を限りなく伸ばせるように取り組んだ。

設備、環境面では特に大きな変化はなく、パソコンを購入、ボイラーの修繕などを行った。また ICT 導入に伴い、登降園システムを一新した。

子どもたちの食事は和食主流で、食材は限りなく近郊でとれたもので、減農薬・有機農法採用の物を使い、素材の持つ美味しさ、旬の味わいができるように創意工夫を重ねた。食材選びはより一層注意し、栄養面を更に充実させ、健康なからだと豊かな心を育てていく食事に取り組んだ。

月 1 回勉強会を行い各個人の理解を深めるとともに、乳児・幼児に分かれミーティングを密に行った。職員研修にも力を入れた。

3、保育時間

午前 7 時から午後 10 時まで保育者のニーズに応えてきた。

4、一時的保育事業

年間延 1020 名の利用があった。特に乳児の利用者が多く見られた。

5、子育て支援センター

専用の電話や直接来園による子育て相談に応じた。乳幼児の発育、健康、育児の他に夫婦、家庭、地域における問題などが多い。些細な悩みさえ自分達で解決できないという現状を改めて痛感した。

子育て支援は広報活動の成果もあり、年間延 803 名の利用がみられた。手形スタンプや赤ちゃん体操、ブックスタートなどが人気であった。

きのみ子どもの家

1、施設の運営

- 所在地 大阪市住之江区南港中4-2-30
- 対象 小学校1～6年生の児童
- 職員 2名（常勤1名、非常勤1名、兼任1名）
- 時間 平常は放課後から午後7時半、学校休暇中は全日

2、事業内容

平均児童利用数 20名前後

子どもたちが心身共に安らぐことのできる憩いの場であるとともに、自ら考え、創意工夫を重ね、自由にやりたいことがやれる環境づくりを心掛けてきた。

学校終了後、子どもたちは2両の電車とその間をつなぐプラットホーム、園庭、きのみガーデンで過ごす。ガーデンは今年度をもって賃借契約終了となる。

基本的には自分でやりたいことを決め、自由に活動するが、指導員は子どもたちの様子を見守りながら、時には一緒になって考えたり、悩んだり、必要に応じて支援した。

また、学年に関係なく、友だちと協力して1つのことをやり遂げ、楽しく継続して取り組める内容の年間行事・活動に盛り込んだ。

男子を中心に野球、サッカーが盛り上がり、1年を通じて行われた。女子を中心に園児との交流が多くみられた。

ICTの導入が行われた。

3、年間行事予定

- 4月 春の草花遊び、こいのぼり製作、しゃぼん玉
- 5月 ドッチボール大会、植物の苗植え
- 6月 シャボン玉遊び、壁面製作
- 7月 七夕製作、七夕祭り、プール遊び、飛び出す絵本製作
- 8月 プール遊び、夕涼み会
- 9月 勤労感謝の日製作、スライム製作、霧吹き鉄砲製作
- 10月 収穫祭、ハロウィーンパーティー

- 1 1月 秋の遠足、はがき製作、光団子コンテスト
- 1 2月 クリスマス楽しもう会、お餅つき会、大掃除、凧製作（凧上げ）
- 1月 コマ製作（コマ回し大会）、お面製作、
- 2月 豆まき合戦、バトミントン大会、ひな人形製作
- 3月 ひな祭り、野球大会、お花見、送別会（錦織公園）

その他 誕生会、野球、バトミントン、鬼ごっこ、一輪車競争

南港北地域在宅サービスステーションきのみ

●きのみデイサービスセンター

1、施設の運営

所在地 大阪市住之江区南港中4-2-30

利用者 年間総利用者数 3,749人（月312名）

職員 11名

利用者数は横ばい状態が続いていたが、9月に急激な低下があった。養護施設からの利用者を多数受けている中、施設で疥癬が発症したため利用を控えることとなり、月間70人近くの落ち込みとなったためである。また利用者の施設入所、死去などで10名程度が登録削除、新規登録は9名であった。

2、事業内容

利用者の心身機能の維持や、社会的孤独感の解消を図り、介護する家族の負担軽減のため、次のことを行った。

1、送迎

利用者や家族の希望に合わせて、送迎計画表にそって、ほぼ順調に送迎が行われている。

2、入浴

看護師による体温、血圧、脈拍などのバイタル測定の後、水分摂取した後、入浴を実施。一般浴とリフト浴で対応している。リフト浴の利用者は全体の約10%である。利用者の体調に応じてシャワー浴、下半身浴、足浴などに変更し対応している。入浴後の水分補給にも留意している。

3、給食

新しいメニューも取り入れながら、利用者楽しく美味しく食べて頂くことを目標にしている。利用者に応じて、おかゆ、おもゆ、刻み食、ミキサー食、トロミ食、おにぎり、などで対応をしている。ほとんどの利用者が完食されている。

4、レクリエーション

各利用者が個別に行うレクリエーションとして、将棋・オセロ・棒抜き・塗り絵・脳トレ問題・クイズ・点つなぎ・ジグソーパズル、トランプ、などを行っている。製作レクにも力を入れ、季節に合ったものを作り持ち帰っていただいている。集団レクにおいても、職員が創意工夫し新しいレクを取り入れている。

お誕生日会、春のつどい、七夕会、クリスマス会、節分会、雛祭り会など年間イベントとして保育園児との交流をもち、利用者にも大変喜んでいただいている。

●居宅介護支援事業

年間給付管理数 722 件

介護支援専門員が2名で受け持ち件数は最大35名と決められている中、1名は平均35件、もう1名は平均23名であった。件数増加へ今度一層の努力していく。

●総合相談窓口

職員 1 名

さきしま地域包括支援センターのランチとして活動。地域包括支援センターとよく連携し協働している。地域の事業所のケアマネージャー、民生委員、ネットワーク推進員や区役所などの関係機関との連携も密に図っており相談件数も増加している。